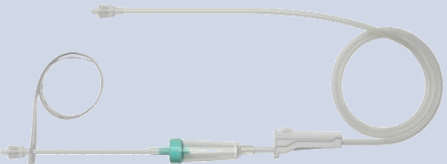
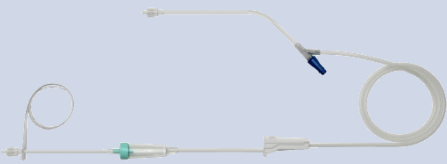


器材紹介

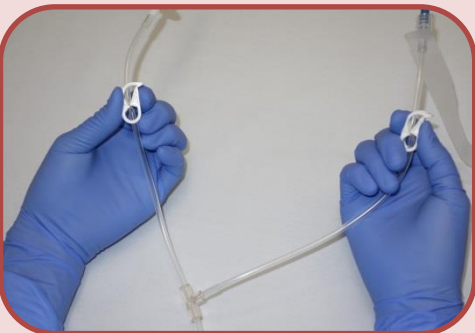
型番	CH-10	CH-2000S/CH2000S-C	CH-3034	CH-3033
イメージ				
定価	@260円	@595円/@630円	@820円	@1,220円
用途	輸液バッグ・ボトルに使用	ロック式シリンジ・輸液セットオスル アー部に使用 S-Cは赤キャップ付	一般の輸液セットびん針部に接続 して使用 シングルタイプ びん針を閉鎖プラグに替える変換 プラグのイメージ	一般の輸液セットびん針部に接続 して使用 2股タイプ びん針を閉鎖プラグに替える変換 プラグのイメージ（2股Ver.）

パル輸液セット

型番	PIC-0C-509	PIC-1C-529	PIC-0C-503	PIC-1C-526
イメージ				
定価	@745円	@970円	@780円	@1,200円
仕様	びん針レス輸液セット ノーマルタイプ	びん針レス輸液セット 側管1個付	2股輸液セット ノーマルタイプ	2股輸液セット 側管1個付
タイプ	シングルタイプ		2股タイプ	

※他にもフィルター付など様々なタイプをご用意しております

操作手順 専用2股のケース



1. クランプ閉じる

- 3箇所のカランプおよびローラークレンメを全て閉じる



2. 抗がん剤側ルートにスピロス取付

- 抗がん剤側ルートのルアーロック部にスピロスを取り付ける【スピロスが“カチッ”というまでねじります】



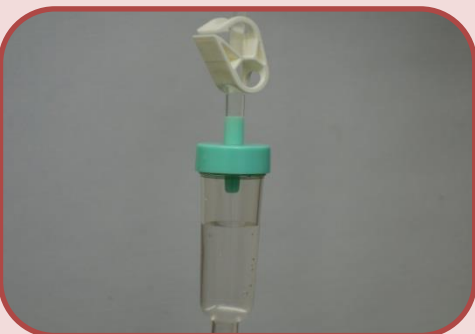
3. プライミング溶液接続

- びん針をプライミング溶液（生食・制吐剤等）に接続します



4. クランプ開放しプライミング

- クランプ2箇所とローラークレンメを開放しルートをプライミングする【抗がん剤側のクランプは閉じたまま】



5. 点滴筒に半分程度溜める

- 点滴筒に5～6割程度になるように溶液を溜めます



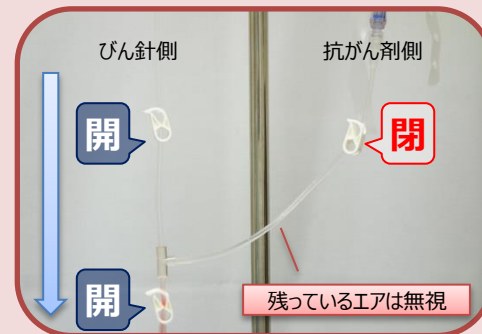
6. コネクター表面をしっかり消毒

- スピロスおよびバッグスパイクのコネクターをしっかり消毒します



7. バッグスパイクと輸液セット接続

- コネクター同士を保持し、ねじって接続します

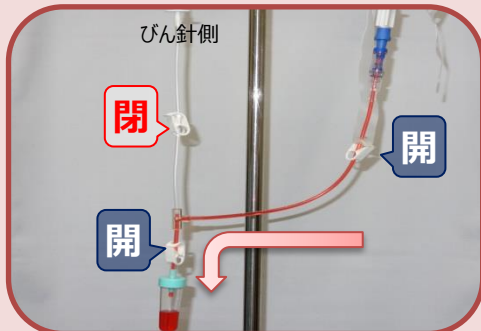


8. クランプ開閉を確認し制吐剤等投与

- 抗がん剤側のクランプ「閉」を確認し、制吐剤等を投与『抗がん剤側ルート内に残っているエアはここでは無視して流す』

操作手順 専用2股のケース

抗がん剤側



9. 投与終了後、流路を切り替えて抗がん剤投与

- びん針側のクランプを閉じ、抗がん剤側のクランプを開放 抗がん剤側ルート内のエアを点滴筒で回収しながら抗がん剤投与開始

びん針側

抗がん剤側



10. 投与終了後、クランプ閉じる

- 抗がん剤投与が終わったら抗がん剤側のクランプを閉じる



11. 2剤目があるときは、コネクター消毒し同様に投与

- 2剤目以降があるときは、先ほどと同様に、バッグスパイク表面をしっかりと消毒

びん針側

抗がん剤側



12. 抗がん剤投与終了後、びん針側に生食等をつなぎフラッシュ

- ルート内部をしっかりとフラッシュ



13. 施設基準に従い廃棄

- 全てのクランプおよびローラークレンメをしっかりと閉めて、施設の基準に従い、廃棄する

操作手順 びん針接続セット3033のケース



1. クランプ閉じる

- 3箇所のカランプを全て閉じる



2. 輸液セットびん針を接続

- 一般の輸液セットのびん針部をチューブに接続【しっかり根元まで接続】



3. プライミング溶液接続

- びん針をプライミング溶液（生食・制吐剤等）に接続します



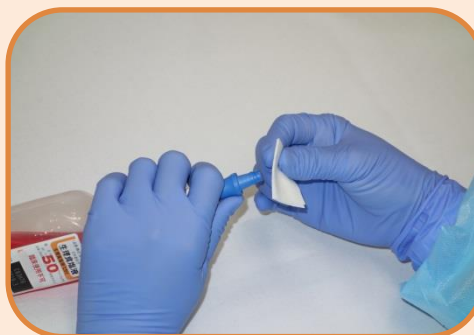
4. クランプ開放しプライミング

- クランプ2箇所とローラークレンメを開放しルートをプライミングする【抗がん剤側の白クランプは閉じたまま】



5. 点滴筒に半分程度溜める

- 点滴筒に5～6割程度になるように溶液を溜めます



6. コネクター表面をしっかり消毒

- スピロスおよびバッグスパイクのコネクターをしっかり消毒します



7. バッグスパイクと輸液セット接続

- コネクター同士を保持し、ねじって接続します

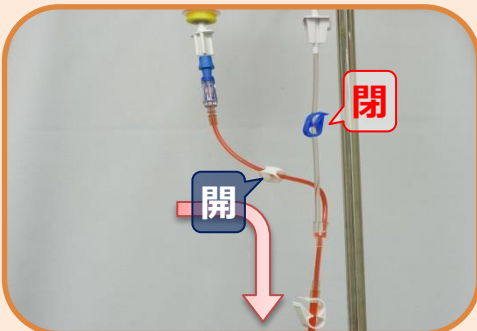


8. クランプ開閉を確認し制吐剤等投与

- 抗がん剤側の白クランプ「閉」を確認し、制吐剤等を投与『抗がん剤側ルート内に残っているエアはここでは無視して流す』

操作手順 びん針接続セット3033のケース

抗がん剤側 びん針側



9.投与終了後、流路を切り替えて抗がん剤投与

- びん針側の青クランプを閉じ、抗がん剤側の白クランプを開放 抗がん剤側ルート内のエアを点滴筒で回収しながら抗がん剤投与開始

抗がん剤側 びん針側



10.投与終了後、白クランプ閉じる

- 抗がん剤投与が終わったら抗がん剤側の白クランプを閉じる



11.2剤目があるときは、コネクター消毒し同様に投与

- 2剤目以降があるときは、先ほどと同様に、バッグスパイク表面をしっかりと消毒

抗がん剤側 びん針側



12.抗がん剤投与終了後、びん針側に生食等をつなぎフラッシュ

- ルート内部をしっかりとフラッシュ



13.施設基準に従い廃棄

- 全てのクランプおよびローラークレンメをしっかりと閉めて、施設の基準に従い、廃棄する

操作手順 専用シングルのケース



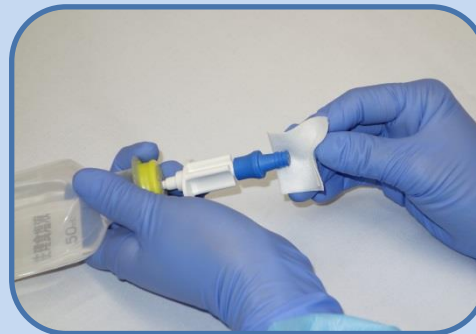
1. ローラークレンメ閉じる

- 輸液セットのローラークレンメを閉じる



2. 輸液セット先端にスピロス取付

- 点滴筒の上流にあるルアーロックにスピロスを取り付ける【スピロスが“カチッ”というまでねじります】



3. 前投薬の輸液バッグ バッグスパイク表面を消毒

- 制吐剤等の前投薬に接続されたバッグスパイク表面をしっかり消毒



4. バッグスパイクと輸液セットを接続してプライミング その後投与

- コネクター同士を保持し、ねじって接続します そのままプライミングし、その後投与



5. 前投薬投与終了後、抗がん剤のバッグスパイクを消毒

- 抗がん剤の入った輸液バッグのバッグスパイク表面をしっかり消毒



6. 抗がん剤バッグにつなぎ替え

- 前投薬のバッグから、抗がん剤のバッグにつなぎ替え 2剤以上あるときは同様の操作を繰り返します



7. 抗がん剤終了後、フラッシュ用薬剤につなぎ替え

- バッグスパイク表面をしっかり消毒し、フラッシュ用の生食等に接続して残液をしっかりフラッシュ



8. 施設基準に従い廃棄

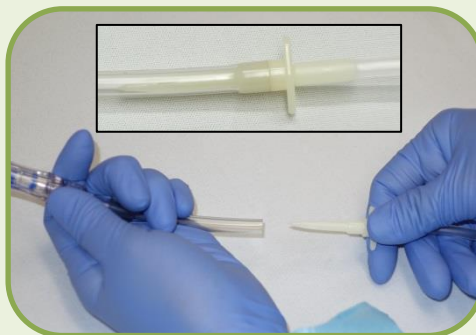
- ローラークレンメをしっかり閉めて施設の基準に従い、廃棄する

操作手順 びん針接続セット3034のケース



1. ローラークレンメ閉じる

- 輸液セットのローラークレンメを閉じる



2. 輸液セットびん針を接続

- 一般の輸液セットびん針部をチューブに接続 【しっかり根元まで接続】



3. 前投薬の輸液バッグ バッグスパイク表面を消毒

- 制吐剤等の前投薬に接続されたバッグスパイク表面をしっかり消毒



4. バッグスパイクと輸液セットを接続してプライミング その後投与

- コネクター同士を保持し、ねじって接続します そのままプライミングし、その後投与



5. 前投薬終了後、抗がん剤のバッグスパイクを消毒

- 抗がん剤の入った輸液バッグのバッグスパイク表面をしっかり消毒



6. 抗がん剤バッグにつなぎ替え

- 前投薬のバッグから、抗がん剤のバッグにつなぎ替え 2剤以上あるときは同様の操作を繰り返します



7. 抗がん剤終了後、フラッシュ用薬剤につなぎ替え

- バッグスパイク表面をしっかり消毒し、フラッシュ用の生食等に接続して残液をしっかりフラッシュ



8. 施設基準に従い廃棄

- ローラークレンメをしっかり閉めて施設の基準に従い、廃棄する

操作手順 シリンジ払い出しのケース



1. シリンジにスピロスが付いた状態で払い出し

- 赤キャップ付スピロスが付いた状態で払い出しを受ける



2. 赤キャップを外す

- 先端の赤キャップを外します（後でリキャップするので捨てない）【引っ張れば外れます】



3. スピロス先端をしっかりと消毒

- スピロスの先端をしっかりと消毒します



4. 輸液セットの側管をしっかりと消毒

- 輸液セットの側管をしっかりと消毒します



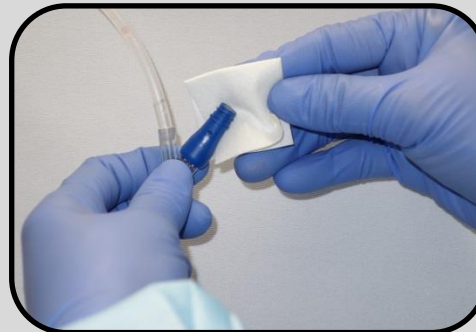
5. 輸液セット側管にねじって接続

- コネクター同士を保持し、ねじって接続します【受け側はロック式器具が取り付けられるものに限りです】



6. 投与終了後、切離して赤キャップをリキャップ

- 切離した後、スピロス先端に再び赤キャップを装着



7. 輸液セットの側管をしっかりと消毒

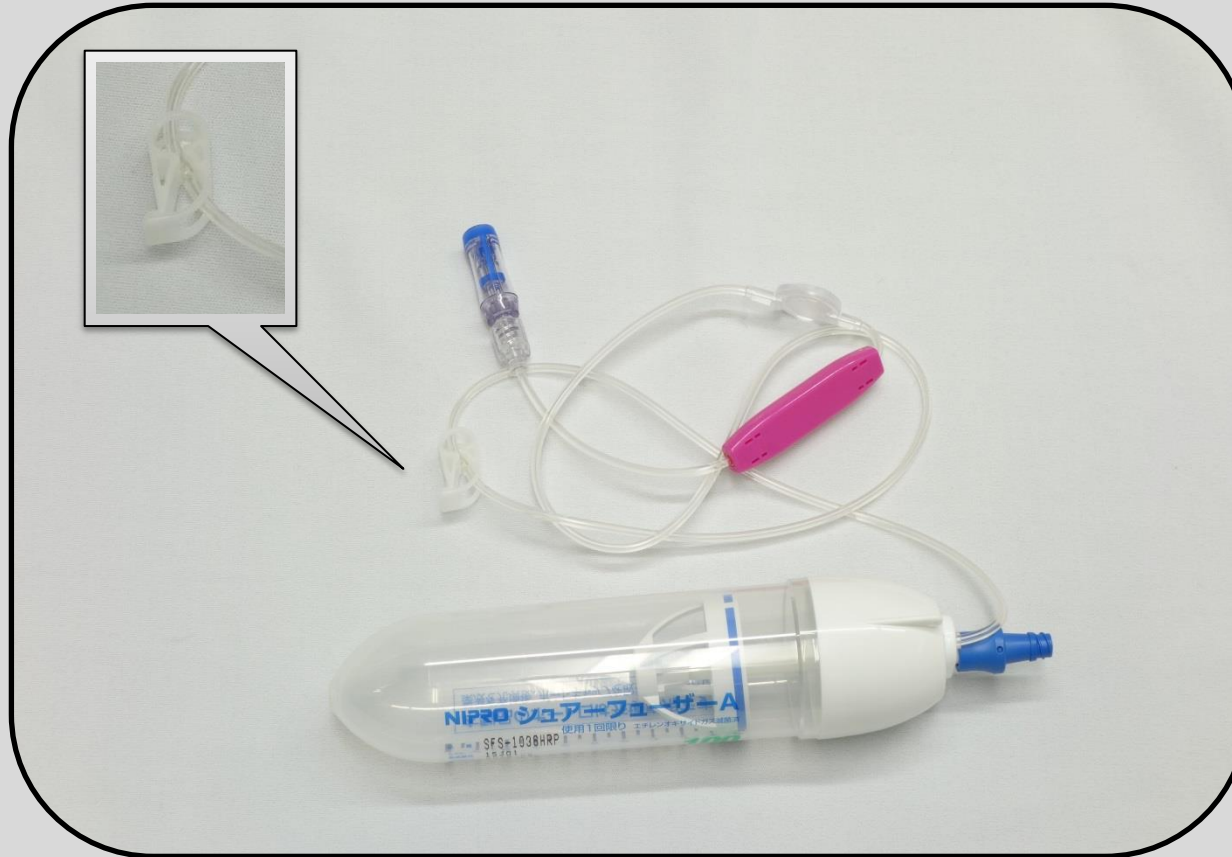
- スピロスを切離した後の輸液セット側管をしっかりと消毒



8. 施設基準に従い廃棄

- 施設の基準に従い、廃棄する

操作手順 インフューザーポンプの払い出し



インフューザーポンプ末端部にスピロスを取り付けて運用頂くことも可能です

- 接続・切離し時の液だれ等を防ぐことを可能とします（当社で接続確認をさせて頂いたポンプに限ります）【投与中以外は、しっかりクランプをして頂く必要がございます】